

2018年4月27日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

わが国のスポーツ振興ならびにスポーツ政策の形成に寄与する
「笹川スポーツ研究助成」2018年度47件
総額 3,096 万円 助成決定のお知らせ

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊 一利 以下：SSF）は、日本のスポーツ振興に貢献する優れた人文・社会科学領域の研究活動を支援する助成制度『笹川スポーツ研究助成』の2018年度採択研究を決定しました。

本年度は、全国から235件の申請があり、学識経験者などで構成する選考委員会による厳正なる選考を経て、47件（総額：30,960,000円）が決定いたしました。

なお本日、SSF主催「笹川スポーツ研究助成」と日本科学協会主催「笹川科学研究助成」は、「研究奨励の会」を共同開催いたしました。（於：ANA インターコンチネンタルホテル東京）

2018年度笹川スポーツ研究助成 採択件数ならびに助成総額

研究テーマ		申請件数	採択件数	助成額
①スポーツ政策に関する研究	一般研究	39	6	10,057,000 円
	奨励研究	33	9	
②スポーツとまちづくりに関する研究	一般研究	37	5	7,037,000 円
	奨励研究	19	5	
③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究	一般研究	50	7	13,866,000 円
	奨励研究	57	15	
合計		235	47	30,960,000 円

主な採択研究 ー対象者氏名・研究テーマについては、2枚目以降の「採択研究一覧」をご覧ください。

- ・鈴木 健一氏（東京都板橋区立蓮根小学校 主幹教諭） 助成額 1,000,000 円
『トップアスリートによる特別授業を取り入れたオリンピック・パラリンピック教育が児童に与える効果の検討』
- ・枝松 千尋氏（倉敷芸術科学大学 生命科学部 准教授） 助成額 889,000 円
『JSTAT MAP を利用した小学校区ごとの公園ユーティリティ得点と児童の体力との関係ー小学2～3年生を対象にー』
- ・遠藤 華英氏（早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 博士後期課程） 助成額 500,000 円
『途上国における国際競技大会を契機としたレガシー構想に関する研究ーSEA Games および ASEAN Para Games に着目してー』

■『笹川スポーツ研究助成』について

2011年度に創設した助成制度です。スポーツに関する人文・社会科学領域の研究活動を支援し、わが国のスポーツ政策に関する議論を活性化させることを目的としています。募集のテーマは、①スポーツ政策に関する研究、②スポーツとまちづくりに関する研究、③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究の3つとなります。

助成額は上限100万円の「一般研究」と、39歳以下の若手研究者を対象とした助成額上限50万円の「奨励研究」のふたつの枠で募集を行っています。

【本件に関するお問い合わせ先】

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究助成担当：山田・宮本・藤岡・吉田・玉澤

TEL：03-6229-5300 grant@ssf.or.jp

2018年度 笹川スポーツ研究助成 採択研究一覧<一般研究>
テーマ1. スポーツ政策に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
埼玉県	佐野 信子	立教大学	教授	ジェンダーの視点からみた多文化社会における一人ひとりの個性を活かした学校体育のあり方について ハワイ州の学校体育を事例として	1,000,000
東京都	石黒 えみ	亜細亜大学	専任講師	育児期女性のスポーツ実施／非実施に関連する要因の量的研究 ーアクティブ・スポーツ・ママとはどのような人たちなのかー	993,000
神奈川県	田中 暢子	桐蔭横浜大学	教授	精神障害者の競技スポーツ推進と国際化における現状と課題 精神障害者フットボール国際委員会の加盟国間の国際比較研究からの ー考察	910,000
埼玉県	上代 圭子	東京国際大学	准教授	大型公共スポーツ施設における付加価値施設・設備の創出 コンセッション時代の公共スポーツ施設経営ガイドライン(試案)の作成	896,000
兵庫県	荒木 香織	園田学園女子 大学	教授	トップスポーツにおける社会環境要因と心理的要因の包括的検証 アスリートを取り巻く環境とメンタルタフネスとの関係	1,000,000
千葉県	渡 正	順天堂大学	准教授	障がい者スポーツ推進のための体育施設運営のあり方に関する研究 体育施設運営者の視点から見た障がい者の施設利用における現状と課 題	971,000

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
兵庫県	山口 志郎	流通科学大学	准教授	産学連携を通じた持続可能なスポーツツーリズムの地域資源開発 神戸市における新たなスポーツイベントの開催を目指して	1,000,000
三重県	重松 良祐	三重大学	教授	自治体スポーツイベントの準備内容と参加率との関連 ～1年間に何を準備すれば参加率が向上するのか～	1,000,000
岡山県	枝松 千尋	倉敷芸術 科学大学	准教授	jSTAT MAP を利用した小学校区ごとの公園ユーティリティ得点と児童 の体力との関係 ～小学2～3年生を対象に～	889,000
北海道	石澤 伸弘	北海道教育 大学 札幌校	教授	スポーツ合宿が地域にもたらす経済波及効果の検証 ー新たな測定指標を用いての実証的研究ー	1,000,000
東京都	池田 真利子	日本学術振興会 ／東京学芸大学	特別 研究員 PD	スポーツ・メガイイベント開催都市における夜間経済の様相 ー東京オリンピック2020 前の変化に着目してー	712,000

テーマ3. 子ども・青少年スポーツ振興に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
和歌山県	伊藤 央二	和歌山大学	准教授	日常生活におけるスポーツ参加が生きがいと幸福感に与える影響の精査 青年後期を対象としたスマートフォンによる経験抽出法	1,000,000
東京都	河野 洋志	東京医療 学院大学	助教	障がい児が水泳を習得するために必要な指導内容の研究 障がい児を持つ保護者と水泳指導者双方からのアンケートによる検討	968,000
長野県	稲山 貴代	長野県立大学	教授	ダウン症候群がある児童・生徒の長期休暇中の健康的な生活習慣獲得 のための支援策の検討	989,000
神奈川県	山北 満哉	北里大学	准教授	運動・スポーツは子どもの非認知能力を高めるのか	1,000,000
東京都	笹井 浩行	東京大学大学院	助教	体力は社会的成功の土台となるか？ ～青少年期の体力づくりの意義を再考する～	1,000,000
大阪府	清水 聖志人	一般社団法人 Sports Design Lab	代表理事	ユースアスリート用ライフスキル評価尺度の開発	996,000
東京都	鈴木 健一	東京都板橋区立 蓮根小学校	主幹教諭	トップアスリートによる特別授業を取り入れたオリンピック・パラリンピック 教育が児童に与える効果の検討	1,000,000

2018年度 笹川スポーツ研究助成 採択研究一覧<奨励研究>

テーマ1. スポーツ政策に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
岡山県	和所 泰史	環太平洋大学	講師	戦後日本の国際スポーツ界復帰に関するダグラス・マッカーサーの役 割について	493,000
神奈川県	備前 嘉文	國學院大學	准教授	スポーツボランティアへの参加を検討する際に生じる制約とその解消行 動に関する研究： 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて	460,000
兵庫県	栗林 千聡	関西学院大学 大学院	大学院博士 後期課程	大学生アスリートの摂食障害予防に向けた基礎研究 ー大学生アスリートとその親、コーチの完全主義が、アスリートの摂食 障害症状に与える影響ー	400,000
千葉県	小崎 亮輔	順天堂大学 大学院	大学院博士 後期課程	スポーツ長期実践者および高齢競技者のストレス対処能力と健康関連 QOL、ならびに身体的健康状況の関連性	500,000
愛知県	伊東 佳那子	中京大学 大学院	実験実習 助手	大正期の盆踊り復興に関する歴史的研究 ー岐阜県の郡上おどり保存会を事例にー	500,000
富山県	神野 賢治	富山大学	講師	国民体育大会の開催が地域に与える社会的インパクトに関する研究 スポーツ推進と地方文化の発展を視座に	500,000
京都府	岡村 誠	立命館大学 大学院	大学院博士 後期課程	市町村スポーツ行政職員の「スポーツ政策経営力量」に関する実証的 研究	500,000
東京都	遠藤 華英	早稲田大学 大学院	大学院博士 後期課程	途上国における国際競技大会を契機としたレガシー構想に関する研究 SEA Games および ASEAN Para Games に着目して	500,000
兵庫県	松崎 淳	神戸大学大学院	大学院博士 前期課程	ワールドマスターズゲームズ 2021 関西が開催決定自治体における運 動・スポーツ推進事業に与える影響	434,000

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
千葉県	上杉 杏	順天堂大学 大学院	大学院博士 後期課程	カナダのアウトドアスポーツにおける持続可能な観光開発の取り組みについて アウトドアスポーツ・ツーリストのプレイスアタッチメントと環境態度・行動に着目して	480,000
埼玉県	押見 大地	早稲田大学	招聘研究員	参加型スポーツイベントが開催地域にもたらすインパクトの最大化 イベントレバレッジ戦略に着目して	496,000
埼玉県	山下 玲	東洋大学	助教	インバウンドスポーツツーリストの事前知識が、目的地の評価とロイヤリティに及ぼす影響： スポーツ関与と訪問経験との関連性	460,000
東京都	棟田 雅也	金沢学院大学	助教	参加型スポーツツーリズムにおけるサービスクオリティ、満足度および行動意図の関連性に関する研究	500,000
宮城県	山梨 雅枝	仙台大学	講師	学校運動会を基軸とする地域コミュニティ形成の可能性 ー沖縄県宮古島市の運動会における「踊り」の多様性に着目してー	500,000

テーマ3. 子ども・青少年スポーツ振興に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
茨城県	有富 公教	筑波大学大学院	大学院博士 後期課程	競技者における機能的思考の解明および個人差の検討 スポーツメンタルトレーニングにおける積極的思考法の再考を目指して	500,000
北海道	入江 智也	北翔大学	講師	青年期アスリートのマインドフルネス特性が競技パフォーマンスに及ぼす効果に関する基礎的研究 ー交差遅れモデルを用いた作用機序の縦断的検証ー	491,000
滋賀県	櫻田 武	立命館大学	助教	スポーツ経験によって形成される大学生の注意適正個人差と運動パフォーマンスへの影響	494,000
千葉県	山口 慎史	順天堂大学 大学院	大学院博士 後期課程	大学生運動部員における傷つきやすさと心の強さがストレスコーピングに与える影響	494,000
京都府	安彦 鉄平	京都橘大学	准教授	ロコモティブシンドロームを呈する学童期の子どもに対するダンスを用いた運動介入の効果検証 身体機能・精神心理機能・行動変容に与える効果	500,000
東京都	城所 哲宏	国際基督教大学	特任講師	小児メタボリックシンドロームに対する座位活動中断の効果 どのくらい頻繁に立ち上がるべきか？	448,000
茨城県	曾我部 立樹	筑波大学大学院	大学院博士 前期課程	自分の身体位置の再現性を高める学習が運動の修正を上達させるのか ～身体位置の認識と実際の位置とのズレをなくす学習を用いて～	500,000
埼玉県	森田 哲史	埼玉大学 教育学部 附属小学校	教諭	小学校体育授業における体育と保健の関連を図った指導計画の開発 陸上運動領域で保健領域を関連して取り上げる指導を通して	500,000

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
茨城県	雨宮 怜	筑波大学	特任助教	発達障害傾向を有する学生アスリートの情報処理方略の特徴とその活用 競技場面における実力発揮と心理的健康、社会的関係性に対する影響性の検討	500,000
大阪府	川村 幸久	大阪教育大学 大学院	大学院修士 課程	児童の体力向上をエビデンスベースとした体づくり運動プログラムの開発 ー身体活動量と児童の運動有用感の関係からー	297,000
東京都	佐藤 吉高	お茶の水女子 大学 附属中学校	教諭	パフォーマンス課題を活用した保健体育の授業開発と効果の検証 ～ワークショップ提案型の体づくり運動の授業を通して～	370,000
兵庫県	伊佐 常紀	神戸大学大学院	大学院博士 後期課程	児童期における体力・運動能力が1年後の遂行機能に及ぼす影響について ー子どもの体力・運動能力の意義に着目した縦断的検討ー	500,000
大阪府	内田 遼介	大阪社会体育 専門学校	非常勤講師	運動部活動場面における体罰と鍛錬の境界 人は如何なる行為を体罰と判断しやすいのか?	482,000
東京都	清水 智弘	法政大学大学院	大学院修士 課程	グッドコーチ育成のためのコーチング尺度開発およびコーチングが選手に及ぼす影響の検討	470,000
埼玉県	後藤 悠太	早稲田大学 大学院	大学院修士 課程	運動有能感を向上させるための正しい走動作獲得法の開発	367,000

※2018年4月16日現在の情報